

東京都退職校長会



会報

発行所 東京都退職校長会
発行者 多田 丈夫

〒113-0034 文京区湯島4-12-3 日本退公連・鈴木共同ビル5F
電話 03-5814-5615

東京都退職校長会ホームページ totaikou.jp/

1. 感染症の終息はいつか

世界を震撼させている新型コロナウイルス感染症の終わり方には2通りあると歴史学者は言う。一つは「医学的終息」で罹患率と死亡率が大きく減少して終わること。もう一つは「社会的終息」で病気に関する恐怖心が薄れてきて終わること。世界を席卷した後、弱いインフルエンザに変わったスペイン風邪のようになるのか。きっぱりと勝利宣言の出せない感染症。歴史に学ぶなら「長くて困難なプロセス」が終わりへの定義の



本会の組織は、
「それでも、ひたすら一本道を走る」
東京都退職校長会 会長 多田 丈夫

ようだ。いつどこで感染するかかわらない新型コロナウイルス。感染予防や治療に必死の医療従事者に全幅の信頼を寄せ、「三密」を避け、マスクの励行など、自己防衛に徹し、この事態を正しく恐れ、ポジティブな時を刻みたいものだ。終息のホイッスルはいつ吹かれるのか。新型コロナウイルスの世界の累計感染者数は、11月12日現在、50676072人、死者数は、1261075人に達した。

2. 組織の意思決定ラインを急ぐ

会員減少は組織の衰退を招くと、の危機感から今年のスローガンは、

〈Go Straight Ahead〉

「ひたすら一本道を走る」を掲げた。なりふり構わず現職園長・校長会との具体的連携を強化し、命運をかけた会員増強への道を邁進していく。また、この国難の時こそ、本会の意思決定のホットライン確立を急ぎ、本部と支部組織との意思疎通の強化を図る。本部は8月下旬から「正副会長会のテレワーク会議の実証実験」を開始した。心の通う会議の新しいライフスタイルを模索している。コロナ禍で当たり前だった日常が一

変した。この危機の時こそ、強い絆で内在する組織の存亡にかかわる諸課題を乗り越え、明るい未来を展望した組織結束の強化をすべての会員と誓いたい。

3. 新たな有識者会議に期待

この時期、学校現場は、多忙を極めている。「教育界の働き方改革」も頓挫したのかと心配したが、「来る10月、文科省が教科担任制の小学校導入を目指し、学校長らでつくる有識者会議を新たに設置する」との小さな新聞記事を目にした。20年度から始まっている思考力や表現力を

問われる学習指導要領の大改革。まずは審議に出席する学校長らの事実に基づかない「真実」を鵜呑みにしないよう説得力ある知見と現場の意志が真に反映される思い切った発言を期待したい。高層ビルの上から見下ろすと低い建物の高さの違いが分かりにくく、どれも同じくらい低く見えるもの。教育者の関心のフィーターは夢見る個性豊かな子供たちに向かう。マインドを変え、新しい視点から教育を語る絶好のチャンスと考えているが…。

主な記事

- | | |
|--------------------|----------------------|
| P1 巻頭言 会長挨拶 | P10 春の叙勲・高齢者叙勲 |
| P2 第67回定期総会中止に伴う経緯 | 受章会員 |
| P3 令和元年度会務報告 | 会員増強推進プロジェクト・チーム コラム |
| P4 令和2年度事業計画 | P11 令和2年度園・学校現場の声 |
| P5 功労会員 | P13 新入会員の声 |
| P6 令和元年度決算書 | P14 支部だより |
| P7 令和2年度予算書 | P16 物故者、編集後記 |
| P8 長寿会員一覧 | |
| P9 本部役員、支部長 | |

第67回定期総会中止に伴う経緯について

―議案書が賛成多数で可決されるまで―

会長 多田 丈夫

○誰も予想できない異例の事態となった。突然の新型コロナウイルス感染症の流行拡大に伴い、5月12日に予定されていた定期総会を10月28日に延期した。以来、感染症の世界的流行が深刻となり、社会・経済的機能のマヒする中、延期していた定期総会の中止もやむなしとの苦渋の決断をした。本来なら春爛漫の時、東京都教育委員会をはじめ、多くの来賓のご臨席を賜り、例年通り会員180余名が一堂に会し、厳粛にして晴れやかな総会のはずであった。さて、遡ること2月14日、本部は新型コロナウイルスに関する第一次緊急連絡（通知）を全支部長に発信した。

主たる内容は、会員の安全第一を優先し、湯島の事務所で2月26日には第二次緊急連絡を発信、全ての定例会議の自粛延長と諸会議の中止を全会員に周知した。更に、3月24日に第三次緊急連絡を発信し、定期総会の延期と定例会議の

さらなる自粛延長を通知した。4月6日に発行された会報第208号の2頁には、定期総会延期の告知と第三次緊急連絡を掲載した。新型コロナウイルスの市中感染が深刻となる中、4月6日より事務室の完全閉鎖を決定。本部は、すべての業務を在宅勤務に切り替えた。

○この危機的状況下にあつて、今後の組織の円滑な運営方法について熟慮に熟慮を重ねた。まず、総会延期と同時に本部は会則第13条と第17条を適用し、「総会に代わる書面評議員会」の開催準備を始め、書面評議員会の外注を決定した。議案書づくりを急ぎ、5月23日にメールで素案を業者に送った。一刻の業務停滞も許さないと判断からトップダウンの取組だった。へ努力する者は希望を語り、怠けるものは不満を語る」との言葉が脳裏を過る。5月26日、注文した議案書のゲラが届き、直ちに三役会（会長、総務部副会長、事務局長）で責任校正

を行い、評議員、支部長及び役員を含めた200名分の議案書を正式に発注した。業者には、発注から関係者への発送までを僅か一週間で仕上げることを約束した。6月1日、15ページに編纂された「令和2年度第67回東京都退職校長会定期総会書面評議員会議案書」が全評議員、関係者に届けられた。書面議案書は、6月15日付締め切りの「返信による表決書提出」を評議員に求めた。

○目指すは、本年度の円滑な本部運営にあつた。お蔭様で、この度の書面表決書の回答率は100%（41支部／41支部）。4つの議案の表決結果は賛成多数で可決された。会員の心に深く浸透し、喜びに入であった。表決結果をHPに掲載、同時に6月23日付のハガキにて全支部長・評議員宛に周知。7月25日、本年度の総会中止を全支部長に伝えた。コロナ禍にあつて、組織の命運をかけた今回の本部の取組に心血を注いでいただいた支部長、評議員、役員の方々に感謝申し上げ報告とする。表決結果は、以下の通りである。

記

「書面評議員会の議案書表決結果」

I. 第1号議案「令和元年度		会務報告」の個別表決結果	
同	同	(1. 活動方針)	賛成 41・反対 0
同	同	(2. スローガン)	賛成 40・反対 1
同	同	(3. 活動の重点)	賛成 41・反対 0
同	同	(4. 各部・委員会の目標)	賛成 41・反対 0
II. 第2号議案「令和元年度	決算・監査報告」		賛成 41・反対 0
III. 第3号議案「令和2年度	事業計画」(案)の個別表決結果		
同	(1. 活動方針)		賛成 41・反対 0
同	(2. スローガン)		賛成 40・反対 1
同	(3. 活動の重点)		賛成 41・反対 0
同	(4. 各部・委員会の目標)		賛成 41・反対 0
IV. 第4号議案「令和2年度	予算書」(案)		賛成 41・反対 0
【議案書の表決結果】			
・第1号議案は、	賛成 98.78%、反対 1.22%	で、賛成多数で可決された。	
・第2号議案は、	賛成 100%、反対 0%	で、賛成多数で可決された。	
・第3号議案は、	賛成 98.78%、反対 1.22%	で、賛成多数で可決された。	
・第4号議案は、	賛成 100%、反対 0%	で、賛成多数で可決された。	

令和元年度 会務報告

1. 活動方針

60年ぶりに全面改正された本会会則の〈実行元年〉の年と位置付け、支部と一体となって東京都退職校長会の存在感を高めながら、未来に繋がる組織力強化という一本道に向かってスクラムを組み、努力した。特に、各校種の現職校長会との連携を深め、本部のプロジェクトチームが司令塔になって会員増強の具体的戦略を練り、年次的、計画的成果の得る環境づくりに努めた。

本部は、大きく飛躍しようと「Step Up System」―組織の発展をめざそう―をスローガンに掲げ、校長退職者の全員加入を目指した。また、支部間の結束を固め、教育の普遍性を堅持しながら、心豊かな生き方のできる第二の居場所づくりに努力した。

- (1) 組織を挙げて、会則の改正点の周知に努力し、各校種の現職校長会との絆を強めながら、最重要課題の会員増強と組織の充実に全力を尽した。
- (2) 本会がめざす「親睦と互助」「生涯学習の推進」「教育支援活動」の一層の充実を期し、本部と支部が一体となって、魅力ある支部活動の紹介・推進・発展に努力した。
- (3) 都教委との委託事業の促進を図ると共に、各事業の透明性を堅持し、各支部間の横断的な協力関係の促進を促し、各関係諸団体との連携の強化に努めた。

2. スローガン「Step Up System」―組織の発展をめざそう―

このスローガンは、現状に甘えることなく、将来に向かって組織を強固にしようと会員が誓ってほしい目標である。常に会員は組織を愛し、ステップアップをしなければならない。

3. 活動の重点

- 新しい会則の条件に即した校長退職者の全員加入を目標に、会員増強推進プロジェクトチームを設置し、入会促進に努めた。
- 各種会議、委員会活動の活性化と効果的な運営、責任ある体制づくりに努めた。
- 財政健全化を目標に、各事業の効率的な運営を図り、適正な予算執行に努めたが、一層の努力が必要である。
- 会員の親睦と互助に寄与するとともに、生涯学習の場の拡充に努めた。
- 会報の充実に努め、会員相互の情報の共有と本部・支部との一体感の強化を図った。
- 教育フォーラムを開催し、会則改正について共通理解を深めるとともに、新しい会則の意味する全員加入への道考えた。
- 都教育庁委託事業を受け入れ、会員の才知と豊かな経験を活かし、その期待に応えた。
- 関係諸機関・諸団体との連携を図り、本会の充実と発展に努めた。

4. 各部・委員会の目標・事業計画

(1) 総務部

① 庶務担当部

- 本会の綱領や活動方針を踏まえ、会務の円滑な運営、各部、各組織間の連絡・調整等に努めた。
- 総会、評議員会、支部長会、運営委員会等の企画・運営及び連絡・調整に努めた。
- 五団体（園長会・各校種校長会）との教育懇談会を企画・運営をした。
- 全連退関係の調査・連絡の任に当たり、関係業務の調整に努めた。
- 41支部の情報収集に努め、本会の諸課題に関する連絡・調整に努めた。
- 新たな会則の入会条件に即した会員の動静と会員数の把握・整理に努め、「令和元年度会員名簿」を発行した。
- 関係機関との連携を深め、退職予定者の入会を促進するために年賀状を送付した。

② 会計担当部

- 各部、各委員会等と連携を図り、諸活動、諸事業の円滑な運営ができるよう配慮した。
- 会員減少に伴う収入減による予算の編成、執行を適正にし、支出の抑制に努めた。

(2) 広報部

- 平成27年度に示した「会報発行の基本原則」に沿って、年4回の会報を発行したが、予算の減少に伴い、発行計画・編集内容の創意工夫を図った。
- 本会の活動状況と的確な支部会員の情報を把握し、「分かりやすい、より魅力のある会報」を目指した。
- 会報等の編集及び校正作業を行い、編集全般の責任を負い、発行に当たっては、正副会長会・運営委員会及び事務局長と緊密な連携を図った。
- 各都道府県及び支部からの会報・情報誌の管理・活用に努めた。
- 「HP」の契約会社の変更に伴う再開設に向けて、編成計画の作成等に着手した。

(3) 福利厚生部

- 功労会員、栄誉会員（叙勲）、長寿会員（白寿以上・米寿・喜寿）に関する支部情報の的確な把握に努め、併せて情報の収集、整理、提供に努力した。
- 別に定める「慶弔等に関する規程」に沿って、会員の慶弔に関する事務を処理した。
- 各支部との連携を密に、功労会員、栄誉会員、長寿会員の正確な情報把握に努力した。
- 年金、高齢者医療、介護等の社会情勢からの情報提供に努めた。

(4) 生涯学習部

- 生涯学習活動に関する情報収集に努め、年2回の魅力ある会員研修会を企画し運営をした。
- 年2回のクラブ委員長会を運営し、活動状況、クラブ会員の把握に努め、各クラブの活性化に努めた。
- 居住する地域で活躍する会員の情報を集め、会報などへの掲載に尽力した。

(5) 企画調整部

- 東京都教育委員会との委託事業の円滑な推進と連絡調整に努力した。
- 各部署で実施する事業の具体的な内容の把握に努め、諸会合が円滑にいくよう調整した。
- 東京都教育委員会幹部との懇談会の企画・運営・調整を行った。

会員研修会中止のお知らせ

定期総会の後、第一回会員研修会を予定していましたが総会中止に伴い中止いたします。なお第二回研修会（11月19日予定）も中止いたします。令和3年度の会員研修会については追ってお知らせいたします。

生涯学習部

(6) 委員会関係

① 業務推進本部「作業部会」

- 会則、規程の一部改正について検討した。
- 「評議員会」の支部長会への吸収的・発展的解消について検討をした。
- 新会則に基づく、新生本会の「会員の呼称」についての申し合わせ事項を決定した。
- 新会則に基づく、本会の「組織図」の提示をした。

② 「会員増強推進プロジェクト・チーム」と各支部との連携による勧誘活動

- 支部長会において、勧誘活動に関する依頼をするとともに、一体感のある入会促進に努めた。
- 入会促進のために、各校種別の現職校長会との連携を深めると、新会則の周知や本会のメリット、「絆」(リーフレット)及び本会会則等の提供や周知を通して入会活動の促進を図った。

(7) 教育関係機関・団体との連携

- 東京都教育委員会と2月に懇談会を開催し、東京都の教育課題に関する本会からの要請事項について意見交換や、本会の果たす役割等についても意見交換をした。
- 東京都国公立幼稚園・こども園長会、公立校長会五団体との教育懇談会を開催し、園長会・校長会の抱える問題や本会の協力できる分野について意見交換をした。又、本会の活動内容の理解を求め、会員増強への協力を要請し、協力の同意を得た。
- 全国連合退職校長会との連携を堅持するとともに、関東甲信越地区退職校長会連絡協議会神奈川大会に3名が参加し、関東甲信越地区退職校長会との情報交換並びに連携強化に努めた。

(8) 都教育庁受託事業

① 都教育庁人材バンク受託事業運営特別委員会

- 「令和元年度人材バンク事業運営に伴う相談・普及広報等について」の事業受託をし、仕様書により本委員会が委員長を中心に事業推進の任に当たった。
- 都教育庁人材バンク事業は、都の方針転換により、令和2年3月末で終了した。それに伴い、本会と東京都教育委員会との委託契約も、令和2年3月31日をもって終了した。
- また、本会の人材バンク事業を推進してきた「教育庁人材バンク受託事業運営特別委員会」は、9年間にわたる業務を終えた。

令和2年度 事業計画

会長 多田 丈夫

1. 活動方針

10数年続いている会員減少に歯止めをかけるため、プロジェクト・チームを司令塔に本部と支部が一体となって会員増強の具体的成果を挙げる年とする。めどずは、組織の命運をかけ、積極的な広報活動を展開し、会員が丸となって校長退職者全員加入の目標達成に努力する。また、財政再建のため、組織の合理化・精選化・スリム化を進め、身を切る内部改革に着手する。特に、予算執行に際し、事業計画ごとに無駄を省き、常に、効率的、効果的運営と公正かつ適正な支出に努める。また、現職園長・校長会組織との絆を一層強め、支部間交流の活性化に励み、共に支え、楽しみ、喜び合える環境づくりに努める。本部は、本年度のスローガンに、「Go Straight Ahead」―ひたすら一本道を走る―を掲げ、入会勧誘の促進と新たな教育課題に果敢に挑む現職園長・校長会との連携を強化し、力を合わせ第二の居場所づくりに邁進する。その実現のため、次の3つの方針を掲げる。

- (1) 本部と支部との結束力を高め、魅力ある本会の創造と現職園長・校長会への働きかけを強め、会員増強への一本道をひたすら走る。
- (2) 本会の目標である「親睦と互助」・「生涯学習の推進」・「教育支援活動」の実現に向け、会報やHPを充実させ、魅力ある会の運営を図る。
- (3) 都教委等との事業に積極的に取り組み、緊密な連携を堅持しながら、本会の存在感を高め、信頼される組織推進を図る。

2. スローガン「Go Straight Ahead」―ひたすら一本道を走る―

3. 活動の重点

- 会則の条件に即した校長退職者の全員加入を目標に、現職園長・校長会、並びに各支部との連携強化に努める。
- 各種会議、委員会活動の活性化を図るとともに、効果的な運営と責任ある体制づくりに努める。
- 会務のデジタル化を促進し、各種会議等での計画的で効率的な運営に努める。
- 財政の健全化を目標に、各事業の見直しと効果的で適切な予算執行に努める。
- 会員の親睦と互助に寄与するとともに、生涯学習の場と健康づくりの拡充に努める。
- 会報、HPの充実を図り、会員相互の情報の共有と本部と支部との絆を一層強める。
- 教育フォーラムを充実させ、生きる力となる会員の研修・修養の場を企画する。
- 教育機関・諸団体との連携を図り、本会の充実と発展に努める。

4. 各部・委員会の目標・事業計画

(1) 総務部

① 庶務担当部

- 本会の綱領や活動方針を踏まえ、業務全体の円滑な運営・管理と各部、各組織間の連絡、調整に努める。
- 総会、評議員会、支部長会、運営委員会等の会務の運営進行の任に当たる。
- 全連退、関プロ大会関係、五団体(園長会・各校種校長会)等との連携を深めると共に、企画・立案・運営の任を負う。
- 41支部の情報収集に努め、本会の諸課題に関する連絡・調整に努める。
- 会員の動静と会員数の把握・整理に努め、会員増強に資すると共に新会員名簿を発行する。
- その他、部に関する事項。

② 会計担当部

- 本会の会計面の一括管理・執行を担当すると共に、財政の健全化に努力する。
- 別に定める「予算編成の基本原則」に則した予算編成と執行計画を立案する。
- 各部、委員会等への支払い業務を行い、諸事業の円滑な運営ができるようにする。
- 会員減少に伴う収入減により、適正な予算執行に努め、支出の抑制に努める。

- その他、部に関する事項。
- (2) 企画調整部
- 東京都教育委員会幹部との懇談会、及び教育フォーラムの企画・運営に伴う各部間の連絡・調整を図る。
- 各部で実施する諸事業の具体的な内容把握をしつつ、会務の円滑な進行のための連絡・調整を行う。
- 各部が提案する資料の把握・物品等の整理・管理に努め、各部間の連絡・調整に資する。
- その他、部に関する事項。
- (3) 広報部・・・・(会報部とHP担当部を置く)
- 別に定める「会報発行の基本原則」に則して発行計画を立て、年4回の会報を発行する。発行予定は、7月、10月、1月、4月とする。
- 本会の活動状況と的確な支部会員の情報を把握し、「分かりやすい、より魅力のある会報」の発行や適時・適切な「HPの充実」を図り、広報活動の活性化を目指す。
- 会報及びHP等の編集及び校正作業を行い、編集全般の責任を負う。発行に当たっては、正副会長会・運営委員会及び事務局と緊密な連携を図る。
- 各都道府県及び支部からの会報・情報誌の管理・保管に努めると共に、有用な教育情報を本会の会議に提供する。
- その他、部に関する事項。
- (4) 福利厚生部
- 功労会員、栄誉会員(叙勲)、長寿会員(白寿以上・米寿・喜寿)に関する支部情報の的確な把握に努め、併せて慶弔等の情報の収集、整理、保管の任を負う。
- 別に定める「慶弔等に関する規程」に沿って、会員の慶弔に関する事務を処理する。
- 毎年10月に実施される「東京都教職員物故者追悼式」での「追悼の言葉」の遺族代表候補者を7月上旬までに選定し東京都教職員互助会に推挙する任務を負う。
- 各支部との連携を密に、功労会員、栄誉会員、長寿会員の正確な把握に努め、総会時の名簿に掲載する責任を負う。
- 新年会及び総会後に実施される懇親会の企画、推進の任を負う。
- 年金、高齢者医療、介護等の福利厚生に関する情報提供に資する。
- その他、部に関する事項。
- (5) 生涯学習部
- 各支部の生涯学習活動に関する情報収集に努め、年2回の魅力ある会員研修会を企画、運営すると共に、会員のニーズに応える研修活動の創意工夫をする。
- 年2回のクラブ委員長会を運営し、活動状況、クラブ会員の把握等に努め、創意工夫して各クラブ活動の活性化に努める。
- 各支部及び居住する地域で活躍する会員の情報を集め、会報誌等への掲載に尽力する。
- (6) 業務推進本部
- 会員増強推進プロジェクト・チームの運営・調整に当たる。
- 会員増強に関する情報の収集・業務・管理を担当する。
- 5団体の現職校長会及び支部長会等との会員増強に関する情報提供及び連携の任に係る。
- その他、会員増強に関する事項。
- (7) 委員会関係等
- ①「会員増強推進プロジェクト・チーム」
- 会則等の周知と会則等の一部改正の素案作りの任に当たる。
- 校種別の現職園長・校長会との関係強化の任に当たり、本部との連絡・調整の業務を行う。
- 会員増強の推進に関する情報収集の任に当たり、効果的な方策の立案に資すると共に本部業務を補完する。
- 委員会関係の業務及び任務等については、別途定める。
- (8) 教育関係機関・団体との連携
- 東京都教育委員会との懇談会を開催し、教育課題に応える教育支援を推進する。
- 東京都国公立幼稚園・子ども園長会、公立校長会5団体との教育懇談会等を開催し、各校種間の校長会との連携強化に努める。
- 全国連合退職校長会との連携強化に努めるとともに、1都9県の関東甲信越地区退職校長会との情報交換を密にし、資料提供及び連携強化に努める。

本会へのご功績を讃え感謝状を贈ります

功労会員(令和元年度以降の退任役員等) 27名(敬称略)

◇参与(2名)

藤井千恵子(埼玉県)
今井 重夫(神奈川県)

◇評議員(8名)

鈴木 正孝(千代田・中央)
味澤 榮子(品川)
伊波 健治(渋谷)
島村 勝實(北)
柳川 国平(八王子)
多賀 義治(千葉南)
藤崎 敬(千葉西)
入江 章(埼玉県)

◇支部長(10名)

小林 由衛(世田谷)
大崎美代子(北)
戸叶 恒夫(荒川)
内匠 英夫(練馬)
奥村 信吾(江戸川)
榛葉 邦男(八王子)
阿久津州美男(北多摩北)
鎌田 敏雄(北多摩中)
広瀬 忠雄(府中)
藤木 三五(千葉西)

◇理事(4名)

会計部 米本 雅子(荒川)
会計部 鷗殿 輝夫(埼玉県)
生涯学習 源原 重行(八王子)
福利厚生 阿部 好三(埼玉県)

◇クラブ委員長(3名)

ソフト 吉田 一夫(目黒)
釣り 藤本 美男(日南)
短歌 根岸美智子(北)

令和元年度 東京都退職校長会 一般会計決算書

1 収入総額 10,740,762 円 2 支出総額 10,524,850 円 3 差引残額 215,912 円

単位＝円 △収入は予算より減、支出は予算より増

収 入 の 部					
款	項 目	元年度予算額	元年度決算額	増 減	摘 要
年 度	会 費	7,113,000	6,360,700	△ 752,300	2,500 円× 2,537 名、1300 円× 14 名
繰 越	金	155,609	155,609	0	
雑 収	入	700,000	524,453	△ 175,547	利子、祝金、広告掲載料等
積 立	基 本 金	2,500,000	3,700,000	1,200,000	特別会計積立基本金より
合 計		10,468,609	10,740,762	272,153	
支 出 の 部					
款	項 目	元年度予算額	元年度決算額	増 減	摘 要
会 議	費	490,000	437,650	52,350	
事 業	総 会 費	420,000	419,162	838	総会に関する諸費（会議費、記念品費、発送費等）
	役 員 会 費	50,000	18,488	31,512	都公立一覧、監査会・五団体懇・支部長会・理事会茶代等
	部 会 費	10,000	0	10,000	各部の会合・資料・印刷・通信費等
	各 種 委 員 会 費	10,000	0	10,000	各種委員会資料印刷・通信費等
事 務	会 員 名 簿 発 行 費	20,000	166,572	△ 146,572	会員名簿作成・発送費・通信費等
	会 報 発 行 費	950,000	1,041,783	△ 91,783	会報 204 ～ 207 号印刷・発送費等
	生 涯 学 習 費	50,000	20,550	29,450	会員研修会会場費・講師謝金等
	慶 弔 費	750,000	685,000	65,000	香料
	渉 外 費	30,000	0	30,000	他機関との交渉、現職校長会連絡費、懇談会会場費等
	ク ラ ブ 補 助 費	80,000	78,700	1,300	クラブ事業の助成費
	教 育 支 援 費	50,000	45,000	5,000	研修会諸経費等
	会 員 増 強 費	50,000	49,446	554	新会員入会に関する通信費等
	H P 運 営 費	270,000	223,437	46,563	H P 維持費等
	支 部 活 動 助 成 費	920,000	875,141	44,859	支部助成・振替料等
	支 部 活 動 祝 金	200,000	225,000	△ 25,000	支部総会・周年行事等の祝金等
	島 嶼 活 動 助 成	15,000	0	15,000	支部長会交通費一部負担
	事 務 費	3,745,000	4,016,561	△ 271,561	
	事 務 用 品 費	75,000	91,603	△ 16,603	事務用品、消耗品等
	備 品 費	10,000	157,500	△ 147,500	事務機器等
交 通	事 務 員 行 動 費	1,080,000	910,000	170,000	本部事務員行動費、資料作成費等
	事 務 所 費	1,900,000	1,946,433	△ 46,433	事務所借料、光熱費、電話料等
	印 刷 費	90,000	132,749	△ 42,749	資料文書等印刷費、コピー代等
	コ ピ ー 機 費	500,000	647,727	△ 147,727	コピー機・印刷機リース代等
全 連 退	通 信 費	90,000	130,549	△ 40,549	事務局の通信連絡用諸費
	交 通 費	1,400,000	1,505,010	△ 105,010	役員会・部会・事務局等の交通実費等
	分 担 金	1,080,000	1,080,000	0	全連退会費 400 円× 2,700 名分納入
	運 営 資 金 積 立 金	20,000	20,000	0	周年事業積立
諸 雑 予 備	会 員 名 簿 積 立 金	10,000	10,000	0	会員名簿発行積立
	費	60,000	45,000	15,000	全連退関プロ大会費等
	費	10,000	0	10,000	諸雑費
	費	268,609	0	268,609	予備費
合 計		10,468,609	10,524,850	△ 56,241	

令和元年度 特別会計 決算書

1. 運営資金積立金				2. 会員名簿積立金			
収 入		支 出		収 入		支 出	
運営資金積立金	1,785,851			会員名簿積立金	77,544		
本年度積立金	20,000			本年度積立金	10,000		
利息	14			利息	0		
計	1,805,865	計	0	計	87,544	計	0
		次年度繰越金	1,805,865			次年度繰越金	87,544
3. 積立基本金							
収 入		支 出					
前年度繰越金	25,978,782	一般会計へ	2,500,000				
寄付金（都民互助会）	1,647,250	一般会計へ補充	1,200,000				
利息	2,640						
計	27,628,672	計	3,700,000				
		次年度繰越金	23,928,672				

令和2年4月1日
東京都退職校長会 会長 多田 丈夫 ㊞ 会計担当部長 小久保 正己 ㊞

諸帳簿、証書等、関係資料と対照監査したところ、適正且つ正確に処理されていることを確認しました。

令和2年4月15日
監事・氏名・印
佐治 恒孝 ㊞ 前田 烈 ㊞

令和2年度 東京都退職校長会 一般会計 予算書

1 収入総額 8,906,612 円 2 支出総額 8,906,612 円 3 差引残額 0 円

単位＝円 △令和元年度より減

収 入 の 部					
款	項	目	令和2年度予算額	令和元年度予算額	増 減
年	度	会 費	6,360,700	7,113,000	△ 752,300
繰	越	金	215,912	155,609	60,303
雑	収	入	630,000	700,000	△ 70,000
積	立	基 本 金	1,700,000	2,500,000	△ 800,000
合	計		8,906,612	10,468,609	△ 1,561,997

支 出 の 部					
款	項	目	令和2年度予算額	令和元年度予算額	増 減
会	議	費	440,000	490,000	△ 50,000
	総	会 費	400,000	420,000	△ 20,000
	役	員 会 費	20,000	50,000	△ 30,000
	部	会 費	10,000	10,000	0
	各	種 委 員 会 費	10,000	10,000	0
事	業	費	3,065,000	3,385,000	△ 320,000
	会	員 名 簿 発 行 費	20,000	20,000	0
	会	報 発 行 費	800,000	950,000	△ 150,000
	生	涯 学 習 費	30,000	50,000	△ 20,000
	慶	弔 費	750,000	750,000	0
	渉	外 費	20,000	30,000	△ 10,000
	ク	ラ ブ 補 助 費	80,000	80,000	0
	教	育 支 援 費	10,000	50,000	△ 40,000
	会	員 増 強 費	100,000	50,000	50,000
	H	P 運 営 費	170,000	270,000	△ 100,000
	支	部 活 動 助 成 費	870,000	920,000	△ 50,000
	支	部 活 動 祝 金	200,000	200,000	0
	島	嶼 活 動 助 成	15,000	15,000	0
事	務	費	3,505,000	3,745,000	△ 240,000
	事	務 用 品 費	75,000	75,000	0
	備	品 費	10,000	10,000	0
	事	務 員 行 動 費	840,000	1,080,000	△ 240,000
	事	務 所 費	1,900,000	1,900,000	0
	印	刷 費	90,000	90,000	0
	コ	ピ ー 機 費	500,000	500,000	0
	通	信 費	90,000	90,000	0
交	通	費	700,000	1,400,000	△ 700,000
全	連	退 分 担 金	1,000,000	1,080,000	△ 80,000
運	営	資 金 積 立 金	20,000	20,000	0
会	員	名 簿 積 立 金	10,000	10,000	0
諸		費	45,000	60,000	△ 15,000
雑		費	10,000	10,000	0
予	備	費	111,612	268,609	△ 156,997
合	計		8,906,612	10,468,609	△ 1,561,997

令和2年度 特別会計 予算書

1 運営資金積立金			
収 入		支 出	
繰越金	1,805,865		
一般会計より繰入	20,000		
利息	100	計	0
計	1,825,965	次年度繰越	1,825,965

2 会員名簿積立金			
収 入		支 出	
繰越金	87,544		
一般会計より繰入	10,000		
利息	100	計	0
計	97,644	次年度繰越金	97,644

3 積立基本金			
収 入		支 出	
前年度繰越金	23,928,672	一般会計へ	1,700,000
寄付金 (都民互助会)	1,500,000		
利息	4,000	計	1,700,000
計	25,432,672	次年度繰越金	23,732,672

令和2年4月1日

東京都退職校長会 会長 多田 丈夫
会計担当部長 小久保正己

祝 ご長寿

(敬称略)

百五歳 1名 大正4年4月2日～大正5年4月1日出生
守屋 章雄(町田)

百四歳 1名 大正5年4月2日～大正6年4月1日出生
望月 英子(神奈川県)

百三歳 1名 大正6年4月2日～大正7年4月1日出生
須山 道德(神奈川県)

百一歳 1名 大正8年4月2日～大正9年4月1日出生
内藤 秀邦(北)

百歳 4名 大正9年4月2日～大正10年4月1日出生
大坂 泰(板橋) 長門 郡司(千葉中)
中里富美雄(埼玉県) 三橋 竹蔵(神奈川県)

白寿 2名 大正10年4月2日～大正11年4月1日出生
荒木 昌善(江戸川) 西山 勝(町田)

米寿 98名 昭和7年4月2日～昭和8年4月1日出生

鳥居 彦之(新宿)	古川 絢子(江東)	浦部 俊久(江東)	都築 秀行(品川)	原 克己(品川)
岡田 和雄(目黒)	菊地 洋二(世田谷)	丸木 一磨(渋谷)	松本 英之(渋谷)	緒方 良子(中野)
星野 俊男(杉並)	西川 照男(杉並)	山口 和久(杉並)	久保庭健吉(豊島)	山田 英子(豊島)
内田千賀子(北)	青木 愛子(板橋)	石田 泰照(板橋)	秋間 政(板橋)	坂入 秀夫(板橋)
藤牧 理市(練馬)	加藤 一夫(練馬)	加藤 良子(練馬)	河口 正治(練馬)	千葉 久雄(練馬)
上原 満枝(練馬)	根本 強(練馬)	和田 弘(練馬)	齋藤 喩(練馬)	立谷 博美(練馬)
清 みと里(練馬)	山口千鶴子(練馬)	西田 達(足立)	佐久間寛次(葛飾)	伊藤 明(葛飾)
中西 朗(八王子)	福田 文夫(八王子)	大山 泰(八王子)	酒井 晴永(八王子)	蓮沼 孝雄(八王子)
杉山 浩一(町田)	佐久間 潔(日南)	古川 耕一(日南)	阿部 忠志(日南)	五所 愛子(武・三)
滝澤 順(北・北)	笹野 守夫(北・北)	石崎 章生(北・北)	半田 登(北・中)	羽賀 弘(北・中)
内田 修(北・中)	河西 芳(北・中)	齋藤 岳(府中)	小出 浩(府中)	齋藤 喬(調布)
中村 公哉(調布)	佐藤 安正(狛江)	井上 孝(狛江)	鶴巻 武(北・西)	木下 守(西多摩)
坂上 洋之(西多摩)	宿谷 清治(西多摩)	福島 敏郎(西多摩)	小林 司朗(西多摩)	森田平太朗(西多摩)
坂 榮治(千葉中)	中村 静夫(千葉中)	齋藤 邦衛(千葉中)	進藤 猛(千葉西)	板井 啓修(千葉西)
松田 孝史(千葉西)	岩城 俊一(千葉北)	渡邊 貞夫(千葉北)	亀井 亮(埼玉県)	窪田 正視(埼玉県)
内山 俊三(埼玉県)	村川 昭博(埼玉県)	豊原 宏之(埼玉県)	高橋 典英(埼玉県)	桔梗 信安(埼玉県)
沼田 浩(埼玉県)	渋谷 安(埼玉県)	佐々木一磨(埼玉県)	富野井輝昭(埼玉県)	織井 道雄(神奈川県)
岡田 明(神奈川県)	大石 良樹(神奈川県)	小川 泰三(神奈川県)	奥脇 弘久(神奈川県)	藤原 節子(神奈川県)
山村 平(神奈川県)	松本 三郎(神奈川県)	辻 敏夫(神奈川県)	植松 岩夫(神奈川県)	金井二三男(神奈川県)
清水 文朗(地方)	長坂 幸夫(地方)	入戸野邦義(地方)		

喜寿 76名 昭和18年4月2日～昭和19年4月1日出生

原 妃子(新宿)	蛭間 壽則(新宿)	藤田 慶三(台東)	横井 利男(墨田)	宮崎 和敏(江東)
永野 建夫(江東)	森 俊一郎(江東)	佐々木道子(目黒)	吉田 邦彦(世田谷)	鈴木 博子(世田谷)
箕輪 文江(世田谷)	勝村 静子(世田谷)	高橋 明嗣(世田谷)	松山 武士(世田谷)	高島 信義(中野)
鈴木 一男(中野)	阿部壽榮子(杉並)	原田 昭(杉並)	添田 禮子(練馬)	伊藤 誠一(足立)
沼田 八郎(葛飾)	襲岩 正子(葛飾)	面田 博子(葛飾)	金本日出夫(江戸川)	宮城島勝史(江戸川)
辻野 良子(八王子)	山口 裕治(八王子)	梅原 照二(八王子)	伊東 公章(町田)	紺野 美夫(町田)
平向 邦江(日南)	三輪 壽彦(日南)	帆足 文宏(日南)	清水 昭男(日南)	入田 康可(日南)
船田 信昭(武・三)	福田 晴美(武・三)	小畑 敦男(北・北)	中山 悦夫(北・北)	関 隆光(北・中)
河野 紀之(北・中)	田中 映子(狛江)	田尻 誠(北・西)	田吉 國子(北・西)	大内 篤(北・西)
若月 哲弘(西多摩)	小野 具彦(西多摩)	東 義明(西多摩)	久保田 登(西多摩)	高橋 渥(西多摩)
市川 孝夫(西多摩)	角野 征大(西多摩)	鈴木 保一(西多摩)	大澤 眞人(西多摩)	生田 怜明(西多摩)
鈴木百合子(西多摩)	矢口 雅章(千葉南)	大金 蓉子(千葉中)	富永 泰子(千葉西)	阿部 英幸(千葉西)
宮崎 節子(千葉西)	富田 鎮雄(千葉西)	土屋 十二(千葉西)	齊藤 徳藏(千葉西)	西嶋久美子(千葉北)
川和 誠一(千葉北)	森山 裕夫(埼玉県)	梅澤 郁子(埼玉県)	荒木喜久子(埼玉県)	落合 勇(埼玉県)
成家 亘宏(埼玉県)	三原 一浩(埼玉県)	崎濱 秀一(神奈川県)	塚田 亮(神奈川県)	寺門 義雄(神奈川県)
西村 佐二(地方)				

<本会のメリットとは！>

(6回シリーズの第1回)

会員増強推進プロジェクト・チーム

着陸そしてソフトランディングへ
～長いこれからの人生をのびのびと～

エンジン全開、生徒や教職員の安心・安全を担保し、先進的な教育活動の展開を図るための学校経営に心血を注いできた毎日。視界良好の日もあれば、暗黒渦巻く乱気流にもまれた時もあった。

我が職務を全うし無事着陸したが、これからの我が人生の滑走路をどのように進もうか安堵感と虚脱感が交錯する中、先輩から「急停止は心身の不健康、同業経験者と和やかに過ごすことが健康長寿の秘訣」と誘われ本会に入会した。

入会当初は何か居心地悪く堅苦しい思いであったが、だんだんに馴染んできて、今は先輩後輩隔てなく趣味の会や懇親会でのびのびと楽しく活動している。お陰で生活の張りもある。(平成25年入会 H.Y氏)

令和2年 春の叙勲受章会員

栄えのご受章お祝い申し上げます (敬称略)

瑞宝小綬章 (4名)	瑞宝双光章 (8名)
中山 貞夫 (練馬)	阪田 博之 (世田谷)
壺内 明 (葛飾)	森田 信義 (江戸川)
伊集院兼宏 (神奈川県)	肥田 浩一 (武蔵野三鷹)
三木 敦夫 (神奈川県)	小野寺時男 (北多摩北)
	小須田昭八 (北多摩中)
	齋藤 喬 (調布)
	瀧上 泰男 (埼玉県)
	萩原 信一 (埼玉県)

令和2年 高齢者叙勲受章会員

栄えのご受章お祝い申し上げます (敬称略)

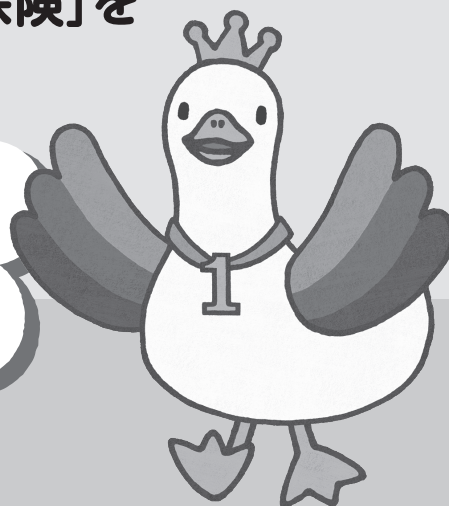
(令和2年4月6日以降 10月1日までに
本部に届けがあった方々)

瑞宝双光章 (6名)	
緒方 良子 (中野)	阿部 忠志 (日南)
久保庭健吉 (豊島)	山口 育朗 (調布)
糸 幸子 (板橋)	翠川 好道 (西多摩)

これからの医療の進歩を見据え、
「生きるためのがん保険」を
新しくします。

NEW/

生きるための
がん保険
Days 1



アフラックは
がん保険
契約件数 **No.1**
平成29年版「インシュアランス生命保険統計号」

NEW/
女性特有のがんにも手厚い
生きるための
がん保険
Days 1

NEW/
あなたの保障を最新化
生きるための
がん保険
Days 1 プラス

すでにアフラックの
がん保険にご契約の皆様へ

■募集代理店 (アフラックは代理店制度を採用しております)

 三井住友トラスト・ライフパートナーズ
SUMITOMO MITSUI TRUST LIFE PARTNERS

 **0120-357-212**

FAX 03-3233-6754

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-11-1

(引受保険会社)

「生きる」を創る。

Aflac

アフラック

東京第一法人営業部

〒163-0456 東京都新宿区西新宿2-1-1

新宿三井ビル19階

Tel.03-3344-1446 Fax.03-3348-0565

◎詳細は「契約概要」等をご覧ください。

令和2年度 園・学校現場の声

八月予定の五団体との教育懇談会がコロナ禍の中で中止を余儀なくされましたが現場の声を心待ちにする本会の会員諸氏の期待に応えるべく各会長の皆様に懇談会に代わる声の特別寄稿をお願いしました。

■幼稚園・こども園

東京都国公立幼稚園・こども園長会 会長 糸原 淳子

○設立70周年を迎えて

少子化や共働き家庭の増加、さらに昨年度スタートした幼児教育・保育の無償化も相まって、公立幼稚園の園児数は激減し、今、非常に危機的な状況を迎えています。2歳児保育等のニーズもある中で、3歳児保育は24区市中11区市で実施されており、社会の状況に合っていない実情があります。都園長会は今年度設立70周年を迎えました。コロナ禍の中、式典等を行うことはできませんが、これまで以上に幼児教育の充実・質の向上に貢献していく使命を果たすべく、組織の結束をより一層強くしているところです。5月に文部科学省から出された「幼児教育の質の向上(中間報告)」においても、公立幼の知見を活

かした教育への貢献や今後の役割への期待が明記されるなど、これからますます公立幼稚園・こども園の存在は重要となります。どうか、東京都退職校長会におかれましても、国公立幼稚園・こども園に、力強いご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

■小学校

東京都公立小学校長会 会長 喜名 朝博

○新しい学校を創る

休業期間を取り戻すために短縮となった今年の夏休み、水泳指導や夏季施設もなく、まさに特別な夏となりました。それでも子どもたちは元気に登校しています。マスク着用と手洗いの励行、三密回避といった新しい生活様式にも慣れ、その順応性の高さは子どもならではかもしれません。しかし、この「学校の新しい生活様式」は、小学校が大切にしてきた、子どもたちが頭を寄せ合い、わいわいと話し合い交流しながら学び合うことを許しません。同様に、他者と関わる事が中心となる特別活動にも制限を与えています。人と関わることを通して学ぶ

ことは、単に知識・技能の定着だけでなく、人間関係構築力やコミュニケーション能力といった非認知能力を身につける場となっています。これまでの当たり前が通用しなくなった今、我々校長は、新しい発想でこの解決策を見出そうとしています。それは、ポストコロナ時代の新しい学校を創造することであり、校長の力量が問われる場面であると自覚しています。東京都退職校長会の皆様におかれましては、是非とも我々校長へのご指導ご助言をお願い申し上げます。

■中学校

東京都中学校長会 会長 花田 茂

○ご挨拶

令和2年度、学校は年度当初から臨時休業となるなど、波乱の幕開けとなりました。例年行われている東京都中学校長会定期総会も、インターネットを利用したウェブ総会として実施し、他の会合等も中止せざるを得ない状況の中、異例づくめのものとなりました。

そのような中でも、まだ予断を許しません。6月より学校が再開でき、子供達の元気な姿を見て、安堵の気持ちを持つことができました。

このような危機に際して、改めて学校という職場の日々の業務を振り返ると、整理して効率的に進められるものも多くあることに気づかされました。当たり前だと思っていたことが、実は当たり前でなかったように、ピンチをチャンスに変えていく発想の転換が求められていると思います。

今回の東京都退職校長会教育懇談会が中止となりましたので、紙面をお借りして貴会の益々のご発展を祈念しまして、改めてご挨拶申し上げます。

■高等学校

東京都公立高等学校長協会 会長 野村 公郎

○新型コロナウイルス感染拡大防止下での学校経営課題

新年度、始業式は実施したものの翌日から臨時休業となり、入学式は中止となった。そのような中、東京都公立高等学校長協会が、コロナ禍において取り組んだ学校経営支援の内容について紹介する。

①校長の要望事項をまとめ都教育委員会関係各部に提言し、施策に活かされた。

要望事項は、第1報「新型コロナウイルス感染症予防に関わる課題」、第2報「教員の自

宅勤務に関わる現状と課題」、第3報「緊急事態宣言解除に向けた取組への課題」、第4報「学校再開に向けた課題」、第5報「Ⅲ期（分散時差登校・登校生徒割合1/2、1日6時間程度授業、週3、4日登校）の課題」、第6報「入学者選抜における課題」と6事項にわたる。

②国の大学入試共通テストの実施時期等について、全国高等学校長協会とともに文部科学省に要望書を提出した。

③新型コロナウイルス感染拡大防止のガイドライン策定に、助言した。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学校経営上の課題が山積しているが、今後も学校経営を支援し、コロナ禍での新たな教育活動における生徒の健全育成に寄与する。

■特別支援学校

東京都立特別支援学校長会

会長 伏見 明

○感染拡大防止に向けた強い思

い

東京都退職校長会会員各位におかれましては、日頃より、特別支援教育の推進に御理解と御支援を頂戴し、心より御礼申し上げます。

現在、都立特別支援学校は、他の公立学校と同様、新型コロナウイルスにより、例年と違う日常を送っております。ただし、他の校種と異なるのは、休業期間中も、家庭で過ごせない幼児・児童・生徒に対し、日中の居場所の提供を学校が行ってきた点です。

障害のある幼児・児童・生徒の多くは、身辺処理に関する介助や、学習面で傍らに寄り添い、手を添えることなどを必要としています。また、基礎疾患を有する者も少なくなく、学校生活自体が高いリスクを伴います。

このことから、都立特別支援学校の全教職員は、保護者が安心して幼児・児童・生徒を学校に送り出せるよう、感染者を出さない。万が一の場合でも感染を拡大させないとの決意で、徹底した衛生管理、健康管理に精励いたしております。つきましては、皆様のなお一層の御理解と御支援を頂戴できればと願っております。

結びに、貴会のさらなる御盛隆を祈念いたしております。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

東京都退職校長会の皆様へ（昭和51年4月1日に福利厚生の一環として団体契約を頂戴しております。）

平素より弊社業務には温かいご理解を戴きまして、誠に有難うございます。

さて、毎年お届けをしております、「東京都民互助会暦」でございますが、新型コロナウイルス感染症による影響を受けまして、来年は発行を中止とさせて頂くことになりました。

弊社暦を楽しみにお待ちくださる皆様には、心よりお詫び申し上げます。今後も職員一丸となり、皆様にご満足いただけますよう、より一層努力して参る所存でございます。

何卒、ご理解・ご了承賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

時節柄、御身ご自愛ください。

株式会社 東京都民互助会



年中無休...フリーダイヤル ☎0120-849544 をご利用ください。



経済産業大臣許可（五）第3066号

株式会社

東京都民互助会

東京都民互助会

検索

<http://www.tomin-gojo.co.jp>

〒167-0042 東京都杉並区西荻北5-1-8 TEL.03-3396-7231 FAX.03-3395-8874

新入会員の声

全てに感謝

品川支部 林 誠

三十九年間の学校勤務に今年度末で別れを告げます。これまでたくさんの先輩方や周囲の教職員の方々にご支援をいただき、ここまで仕事を続けることができた大変感謝をしております。そして、たくさんの感動を与えてくれた子供たちにも「ありがとう」という思いでいっぱいです。最後の一年となる今年度は新型コロナウイルスにより教育活動が大きな影響を受け、中止や縮小をよぎなくされました。特に今年度は開校百周年にあたり、早めに準備を進めていただけた大変残念です。しかし、今は子供たちや教職員への感染防止に努めることが、何よりも大切なことだと考えています。

できないことが多い中で、できることを精一杯頑張る、役目を終えたいと思っています。

感謝

大田支部 木崎 正和



昭和五十九年四月、大田区立蓮沼中学校がスタートでした。

三十六年間の教職生活で、五年間だけ世田谷区に、三十一年間は大田区にお世話になりました。私は生まれも育ちも大田区なので恩返しのできる気持ちでした。

それぞれの学校で出会った教え子、保護者、地域の方々、仲間、先輩、そして何より家族に感謝しています。

三月に定年退職を迎え、四月から再任用校長として昨年度から引き続きの大田区立田園調布中学校に勤務しております。

多くの人たちとの出会いが財産となっています。今までの経験も含めて、学校経営に生かしていきます。

また、年に数回、教え子たちとの会があります。とても楽しいです。教師冥利に尽きます。

ごあいさつ

江東支部 柴野 晃一郎

昭和五十八年に教職をスタート、この三月に定年を迎えました。江東区で採用後、江戸川、足立、世田谷と異動し、杉並、江東で管理職を務めさせていただきました。子どもの笑顔をやりに甲斐に頑張った三十七年間、多くの先生方、保護者・地域の方々に恵まれました。これまで出会い、支えてくださった皆様とのご縁は、私の財産です。入会にあたり、十九年間お世話になった江東区の先輩方から温かいお言葉を掛けていただき、とても有り難いです。これから、皆様とのご縁を大切にしていきたいと思っています。

現在は、再任用校長として勤務しております。子どもと教職員のために、コロナ禍での学校経営に全力を尽くします。

ご指導の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

流れのままに

千葉南支部 石毛 由美子

私は、平成二十二年に定年を迎え、再任用校長として四年、江東区の教育センターで非常勤として七年勤めました。年季の入った新入会員です。お世話になった先輩からのお誘いなので、お断りできません。恩返しです。千葉に転居し、姉と二人で九十八歳の母の介護をしています。昼間は姉が看ているので、私は仕事に出られます。一緒にいる幸せを味わっています。

休日は月一回程度で、主人が経営している熱海のペンションのお手伝いをしています。今、コロナ禍でお客は少なく、私のためのペンションのようです。みかん畑で野菜を育てているのも楽しいです。無理をせず、流れのまま生きています。

これからも、今までの経験を生かした仕事ができればと思っています。

支部だより

支部活動を振り返って

墨田支部長 小菅 和子

支部だよりの依頼がありましたが、新型コロナの影響で墨田支部でもすべての活動が中止、延期となりました。毎年五月に行われる総会は十二月の忘年会の時にと一応予定し、七月にやっと常任理事会を開き今年度の活動計画を立てました。

墨田支部の歴史を振り返り今までの主な活動について述べさせていただきます。

墨田支部は昭和三十七年に四十七名の方々が「墨田区元校長の会」を創設。その後いわゆるA・B会員合わせて活動するようにになりました。最大の会員数は百六十余名。現在は六十三名で六割以上が後期高齢者といわれる方ですが三つの事業を重点的に行って参りました。

①会誌発行。②退公連と合同

展覧会。③日帰り研修旅行。

①の会誌発行は昭和五十年創刊で今年で四十六号になります。墨田区内の風物を表紙にしており現在はカラー写真です。毎号六割以上の会員の寄稿があり、今年もこれだけだと九月に発行することになっております。

②の退公連との合同展覧会は会場費の値上りや、設営の危険なこともあり、会員の意見を求め平成二十九年に二十一回で残念ながら中止となりました。

二十二回目になる③の日帰り研修は主に墨田区近辺で行っておりましたが、この三月に巣鴨方面へと足を伸ばすことになり実踏、冊子作成と万端整えておりましたが、コロナ収束後に延期になりました。

会員数は減りましたが会員の方々の協力を得て受け継がれてきた事業を更に中味の濃いものと活動しています。

つながりを大切に

目黒支部長 高橋 毅

新型コロナウイルス感染拡大という初めての経験の中で、「六月の総会が開催できるのか」という不安な気持ちで三月を過ごしておりました。

四月には、「緊急事態宣言」が発出され、社教館も閉鎖になり、役員会や総会の資料作りもできない状況でした。五月中旬に総会中止の案内を会員に連絡。会計監査は別会場で実施でき、会計報告と事業報告、そして、会員の現況を加え、今後の予定も併せて連絡できました。八月当初に、今年度最初の役員会を実施。

さて、本支部の例年の事業をご紹介します。

◆参加型の事業

○総会・懇親会 ○新年研修会・懇親会・作品展 ○史跡歩こう会 ○教育課題研修会（年二回） ○三間ゴルフクラブ（年六回、現職と一回） ○納涼懇親会

◆報告型の事業（準会員にも配布）

○会員名簿（自前印刷）…会員の住所等、役員一覧、会則、幼小中学校長・副校長一覧、研究発表校一覧、地区委員一覧

○支部だより（業者印刷）…年二回発行、会員の動静・教育委員会会の事業動静・研究発表会の報告

○お便り集（自前印刷）…総会用の返信ハガキに、健康、生活、教育論等記載し、担当者がまとめ。

○総会要項…会員現況、総会資料

◆その他

○企画会（年二回）・役員会（年六回）※役員数…二十三名

○会員数…一二三名（減少傾向）

○総会等参加率…二十〇二十五%

○支部年会費…千五百円

◆準会員との交流…○研究発表会への参加 ○学校評議員・研究講師 ○小学校転退職校長と現職校長の会（現職が準備）
今後、懇親会ができない状況で会員相互の絆を高め、実り多い活動の在り方を模索していきたい。

本支部の活性化を図るための

課題とその対策

荒川支部長 桜庭 清徳

荒川支部では、十年程前から支部の活性化を図ることを目指し、その取り組みを行って来ました。それは、様々な社会情勢等の変化に伴い、従来通りの活動が出来ずらくなって来たことが大きな理由でした。例えば、消費税の値上げにより、財源面で厳しくなったこと。退職校長の再任用制度が導入されたことで、会員加入者が激減したこと等が挙げられます。

一 財源の確保

この十年間で消費税が二回も値上げになり、諸活動に大きな影響を及ぼしていました。そこで充実した活動を展開するため財源を如何に確保するか、で

した。対策として・懇親会の参加費を上乘せして残金を多くした・役員会の回数を減らして交通費を浮かした・A会員とB会員の支部年会費を同額にした。このことで、三万円の財源を増額することが出来ました。

二 会員の増強

本支部はA会員が二十名前後でB会員が八十名位の合計百数名程の会員でした。しかし、校長再任用制度の実施に伴い、入会者が激減し危機感を抱くほどでした。そこで、十年前から「退職校長年度別名簿」を作成し、毎年一月頃から未加入者に電話や学校訪問を行い、加入活動を推進して来ました。このことが徐々にではありますが成果となって来ています。

これらの課題は、会則を変えないと改善することが出来ない、ので、会則の改定をその都度行い、やっとそれなりの活動が出来るようになりました。今後とも一層の活性化に努めます。

結成五十一年目に向かつて

元気に歩んでいます

埼玉県支部長 森山 裕夫

埼玉県支部はこの六月六日に令和二年度定期総会とともに支部結成五〇周年記念式典を盛大に挙行できるはずでしたが、コロナ禍の煽りを受けて総会も記念式典も延期しました。そればかりか総会で承認されるはずの事業計画も正常な支部運営がままならない状況のため中断しています。

さて、現在埼玉県支部の会員数は百七十五名です。五〇年前の結成当時は五十九名ですから大した差がないように思えますが、一時期三百七十四名の大所帯になったこともあるわけですからこの五〇年間でかなりの会員の減少です。しかし会員が相互の親睦と互助を深め各種会合やクラブ活動を中心に生涯学習の充実と推進に元気に取り組む姿に救われます。

コロナ禍にある今年「高齢者の会合は感染拡大のリスクが高く極めて危険！」と「三密」を

意識しながら全会員で取り組んできた本年度の埼玉県支部の活動の一端を報告します。

一、六月六日予定の「令和二年度定期総会資料」と「会報一〇四号」を五月一日付で全会員宅に郵送したこと。(様々な制約を役員の知恵と工夫でいつも総会を開ける準備を図れたのは本支部ならではの伝統の一つ)

二、六月六日の記念式典当日に配布予定の記念誌「さきたま会結成五〇周年」を六月初旬に全会員宅に届けられるようにと、コロナ禍を意識しながら実行委員会あげてゲラ刷り校正に拍車を掛け合い、六月初旬には全会員宅に郵送し、居ながらにして結成五〇周年の喜びを分かち合えた。

三、会員の理解と協力で期日通り本部に年会費は納入済み。

担当役員の努力で九月十五日にさいたま市中町二丁目の公民館講座室にマスク着用姿で役員と地区幹事が勢ぞろいします。総勢四十三名。

心が躍ります。

(令和2年9月30日届出現在)

物故者



謹んでご逝去を悼み
ご冥福をお祈り申し上げます

氏名	年月日	支部名	校種	年齢	名簿頁
佐久間 穰	平30.7.13	足立	小	91	35
内山 俊三	令元12.24	埼玉県	小	87	97
堀井 榮夫	令元12.30	葛飾	中	72	15 (2019年度版)
武田 恵子	令2.1.10	日南	中	91	55
岡本 昭二	令2.1.11	八王子	高	90	43
木戸 聰	令2.1.23	千葉北	中	83	93
布施 篤美	令2.2.13	武・三	小	92	58
長野宏太郎	令2.2.13	世田谷	小	92	14
生島 信夫	令2.2.17	世田谷	小	95	16
塩野 辰二	令2.2.28	千葉北	小	91	93
石垣 尚之	令2.3.4	地方	小	96	110
茂木 辰雄	令2.3.5	練馬	中	91	33
高水 重雄	令2.3.26	北・中	小	88	67
金子 清	令2.3.27	杉並	小	93	21
松田 實	令2.3.28	練馬	小	95	33
大柴 昭三	令2.4.5	狛江	小	91	70
江木 常夫	令2.4.13	江戸川	中	76	42
河野 淳	令2.4.18	江戸川	小	93	40
中島 譲	令2.4.22	目黒	養	89	9
原 一男	令2.4.23	練馬	小	99	33
平井 明	令2.4.25	杉並	小	101	23
齋藤 吉衛	令2.4.29	文京	小	89	3
大久保正祺	令2.5.2	八王子	小	87	44
中光 正宣	令2.5.7	八王子	中	81	46
永瀬 純三	令2.5.8	府中	中	87	68
木下川 肇	令2.5.17	練馬	中	67	35
薊 文雄	令2.5.18	足立	小	90	36
芝田 時次	令2.5.22	北・西	小	90	71
小川 泰三	令2.5.22	神奈川	小	87	104
高野 篤人	令2.5.28	武・三	小	93	57
大石 稔	令2.6.24	千葉西	中	89	90
濱島 和夫	令2.6.26	埼玉県	小	92	96
伊東 公章	令2.7.10	町田	小	76	50
中村 秀雄	令2.7.17	神奈川県	小	91	103
増渚 和利	令2.7.31	北・中	小	94	65
松崎 正勝	令2.8.9	狛江	小	81	70
宮川 惟男	令2.8.11	神奈川県	中	88	104
井上 安悦	令2.8.20	西多摩	中	69	82
中村 昭平	令2.9.5	西多摩	小	90	76
前沢 正己	令2.9.11	葛飾	小	92	40
有馬 正英	令2.9.16	世田谷	中	91	17
秋庭 渡	令2.9.28	北	中	96	24

投稿欄の休載について

会員の皆様には、会報誌への投稿、お礼申し上げます。

現在、退職校長会事務局が閉鎖されており、広報部会で内容検討ができないため、当面の間、休載とさせていただきます。

編集後記

会報209号発行に際し、コロナ禍の中で執筆してくださいました皆様に心からお礼申し上げます。中でも、五団体との教育懇談会が中止になる状況下での、各会長先生方の玉稿に接して感銘を受けました。未曾有の事態に直面する中で、子供たちの笑顔と学びを保証するために様々な課題に取り組みされていることに、敬意を表します。

会報の編集作業は、社会のテレワークの定着に倣い、インターネットの活用を図りました。しかし、ネット環境を持たない会報部員との連絡や、直接送付の必要性等もあり、郵便やFAX、電話、携帯メール等を駆使しました。

京都大学総長で、ゴリラ研究者として有名な山極寿一先生は、NHKの番組で「信頼は直接会って話してこそ醸成される。」と話していました。一日も早いコロナの収束を願うとともに、コロナ後の明るい社会を信じたいと思います。

(角田美枝子)